

第 83 回がん対策推進協議会

資料 2-2

令和 4 年 10 月 13 日

# 文部科学省における がん教育の取組について



文部科学省

MEXT

MINISTRY OF EDUCATION,  
CULTURE, SPORTS,  
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

初等中等教育局健康教育・食育課

# 学習指導要領等における「がん」に関する主な記述

- 平成29年3月に改訂された中学校、平成30年3月に改訂された高等学校の学習指導要領において、生活習慣病などの予防と回復等について学習する際に、「**がんについても取り扱う**」ことが新たに明記された。
- 学習指導要領に基づき、各学校において、児童生徒の発達段階に応じた「がん教育」が実施されている。

## 小学校学習指導要領（平成29年3月告示）抜粋 第9節 体育

### 第2 各学年の目標及び内容 〔第5学年及び第6学年〕

#### 2 内容 G 保健

- (3) 病気の予防について、課題を見付け、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 病気の予防について理解すること。
- (I) 喫煙、飲酒、薬物乱用などの行為は、健康を損なう原因となること。
- ※解説  
喫煙を長い間続けるとがんや心臓病などの病気にかかりやすくなるなどの影響があることについても触れるようにする。
- イ 病気を予防するために、課題を見付け、その解決に向けて思考し判断するとともに、それらを表現すること。

## 中学校学習指導要領（平成29年3月告示）抜粋 第7節 保健体育

### 第2 各学年の目標及び内容 〔保健分野〕

#### 2 内容

- (1) 健康な生活と疾病の予防について、課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 健康な生活と疾病の予防について理解を深めること。
- (イ) 健康の保持増進には、年齢、生活環境等に応じた運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活を続ける必要があること。
- (ウ) 生活習慣病などは、運動不足、食事の量や質の偏り、休養や睡眠の不足などの生活習慣の乱れが主な要因となって起こること。また、生活習慣病などの多くは、適切な運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活を実践することによって予防できること。

#### ※解説

がんは、異常な細胞であるがん細胞が増殖する疾病であり、その要因には不適切な生活習慣をはじめ様々なものがあることを理解できるようにする。また、がんの予防には、生活習慣病の予防と同様に、適切な生活習慣を身に付けることなどが有効であることを理解できるようにする。なお、(略)健康診断やがん検診などで早期に異常を発見できることなどを取り上げ、疾病の回復についても触れるように配慮するものとする。

(I) 喫煙、飲酒、薬物乱用などの行為は、心身に様々な影響を与え、健康を損なう原因となること。また、これらの行為には、個人の心理状態や人間関係、社会環境が影響することから、それぞれの要因に適切に対処する必要があること。

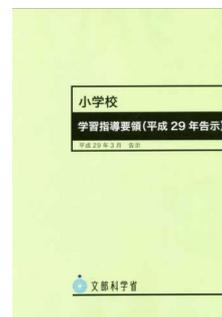
#### ※解説

常習的な喫煙により、がんや心臓病など様々な疾病を起こしやすくなることを理解できるようにする。

イ 健康な生活と疾病の予防について、課題を発見し、その解決に向けて思考し判断するとともに、それらを表現すること。

#### 3 内容の取扱い

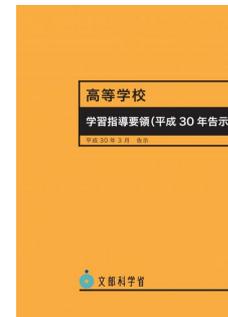
- (3) 内容の(1)のアの(イ)及び(ウ)については、(略)。また、**がんについても取り扱う**ものとする。



小学校学習指導要領(平成29年告示)  
令和2年度から全面実施



中学校学習指導要領(平成29年告示)  
令和3年度から全面実施



高等学校学習指導要領(平成30年告示)  
令和4年度から年次進行で実施

## 高等学校学習指導要領（平成30年3月告示）抜粋 第6節 保健体育

### 第2款 各科目

#### 第2 保健

#### 2 内容

- (1) 現代社会と健康について、自他や社会の課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 現代社会と健康について理解を深めること。
- (ウ) 生活習慣病などの予防と回復  
健康の保持増進と生活習慣病などの予防と回復には、運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活の実践や疾病の早期発見、及び社会的な対策が必要であること。

#### ※解説

がん、脳血管疾患、虚血性心疾患、高血圧症、脂質異常症、糖尿病などを適宜取り上げ、これらの生活習慣病などのリスクを軽減し予防するには、適切な運動、食事、休養及び睡眠など、調和のとれた健康的な生活を続けることが必要であること、定期的な健康診断やがん検診などを受診することが必要であることを理解できるようにする。

その際、がんについては、肺がん、大腸がん、胃がんなど様々な種類があり、生活習慣のみならず細菌やウイルスの感染などの原因もあることについて理解できるようにする。がんの回復においては、手術療法、化学療法（抗がん剤など）、放射線療法などの治療法があること、患者や周囲の人々の生活の質を保つことや緩和ケアが重要であることについて適宜触れるようにする。また、生活習慣病などの予防と回復には、個人の取組とともに、健康診断やがん検診の普及、正しい情報の発信など社会的な対策が必要であることを理解できるようにする。

イ 現代社会と健康について、課題を発見し、健康や安全に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現すること。

#### 3 内容の取扱い

- (1) 内容の(略) (1)のアの(ウ)については、**がんについても取り扱う**ものとする。

# 教科用図書におけるがんの取扱い例

## 学研教育みらい「みんなの保健」（小学校）

**考える 調べる** 長期間にわたって喫煙すると、体にどんなえいきょうが出るでしょうか。

さまざまな病気にかかる危険性の増加 \*喫煙しない人と比べた場合

がん	危険性	心臓病など	危険性
女性			
肺がん	4.2倍	脳卒中	2.0倍
乳がん	1.9倍	心臓病	3.0倍
男性			
食道がん	3.7倍	脳卒中	1.3倍
肺がん	4.5倍	心臓病	2.9倍
胃がん	1.7倍		
すい臓がん	1.8倍		
大腸がん	1.4倍		

(国立がん研究センターによる)



喫煙が習慣になると、やめるのが難しくなります。やめられないままに長期間吸い続けると、がんや心臓病などにかかりやすくなります。喫煙を始めた時期が早く、吸っている期間が長いほど、大きな害を受けます。このため、未成年者の喫煙は法律で禁止されています。

関連 がんや心臓病などについては、40～41ページで学習しました。

**考える 調べる** 喫煙を制限している場所が増えているのはなぜでしょうか。



喫煙者の近くにいる人は、喫煙者がはき出したけむりや、たばこの先から出るけむりを吸わされてしまいます。これを受動喫煙といいます。受動喫煙でも有害物質を吸いこんでしまいます。喫煙は、周りの人にも害をあたえるのです。

関連 喫煙の制限には、完全禁煙と、喫煙できる場所や時間帯を区分する分煙があります。環境美化のために喫煙を制限しているところもあります。

**まとめる 学びを 深める** 学習したことを活用して、大人になっても喫煙しないほうがよい理由を三つ挙げてみましょう。

.....

もっと知りたい 調べたい

「がん」って、どんな病気? 40ページ

中学校2年の「がんの予防」で学習します。

みなさんの疑問に、学校医さんが答えてくれました。

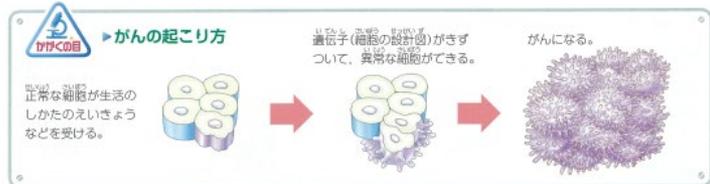


**Q** がんは、日本人の死亡原因の1位だと学習したけど、どのくらいのがんにかかるといわれているのかな?

**A** およそ二人に一人です。男性の約60%、女性の約45%が、がんにかかるといわれています。

**Q** がんは、どのようにして起こるのかな?

**A** わたしたちの体のの中では、毎日のように、正常ではない細胞ができています。ふだんは、体のていこう力がおさえられていますが、ていこう力が低下すると、おさえることができなくなります。その異常な細胞が増えて、がんになります。



**Q** がんにかからないためには、どうしたらいいの?

**A** 絶対にがんにかからない方法というはありません。でも、がんの原因となることをさけたり、よい生活習慣で生活したりすることで、かかりにくくなります。また、がんは感染する病気ではなく、治療使う放射線も周りの人にえいきょうはありません。

- がんの主な原因
- ・喫煙 (46～47ページを参照)
  - ・アルコール (48～49ページを参照)

\*細菌やウイルスの感染が主な原因となるがんもあります。

**Q** がんにかかると治らないの?

**A** 医学の進歩によって、がんは治せない病気ではなくなってきました。がん検診などで早期に発見され、早期に治療を受けることができれば治る確率も高くなります。

がんについての教材を作っている地域が多くあります。



がんになっても、仕事をして希望を持って生きていく人が大勢います。

家の人に、がんの検査を受けたが、聞いてみよう。

# 教科用図書におけるがんの取扱い例

東京書籍「新しい 保健体育」(中学校)

保健編 | 4章

健康な生活と疾病の予防

## 3 がんの予防

見つける

聞いたことがある「がん」に、○を付けてみましょう。

胃がん  肺がん  大腸がん  乳がん  肝臓がん

学習課題

がんとはどのような疾病でしょうか。また、がんを予防するにはどのようなことが必要でしょうか。

● キーワード ● がんの要因 ● がんの予防 ● がん検診

課題の解決

資料 1 がんの発生と経過

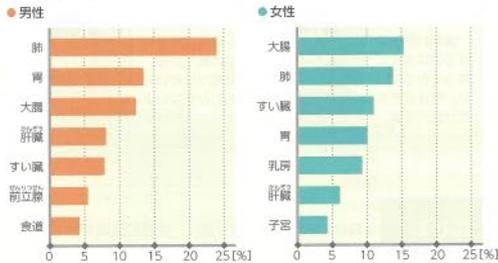


がんという疾病

がんの発生の仕方を調べてみましょう。 → 資料 1

がんとは、体の正常な細胞が異常な細胞(がん細胞)に変化して勝手に増殖することにより、周囲の大切な組織を壊してしまう疾病です。がんは、全ての臓器に発生する可能性があり、一般的には、肺がん、胃がんなど、発生した臓器の名前を付けてよんでいます → 資料 2。また、がんの種類や状態によって、発見のしやすさ、治療方法、治りやすさなどが違います。

資料 2 がんによる死亡のうちの主な部位別割合(2017年)



がんの要因と予防

がんの要因を調べてみましょう。 → 資料 3

がんの要因には、喫煙や過度の飲酒、不適切な食事、運動不足といった生活習慣や、細菌・ウイルスの感染などさまざまなものがあります。自分でできるがんの予防としては、適切な生活習慣を身につけることが有効です。

● 例えば、ピロリ菌は、胃がんの発生に関わっているといわれる。

資料 3 日本人におけるがんの要因



がんの早期発見と回復

右の資料からどのようなことが分かるか。話し合ってみましょう。 → 資料 4

がんは、進行するほど治りにくくなります。健康診断やがん検診などで早期に異常を発見することは、がんの治療や回復のために重要です。また、がんにはいくつかの治療方法があり、患者の同意に基づいて治療方針が決定されます。

● 手術療法、放射線療法、化学療法、痛みを和らげる緩和ケアなど。

資料 4 がんが発見されたときの進行度と5年生存率\*

\*がんと診断された人のうち、5年後に生存している人の割合。日本人全体の5年後の生存率と比べて表される。



! ポイント がんは大きさやほかの臓器への広がりによって、4つの進行度に分けられる。数字が大きくなるにつれて、がんが進行している状態を示す。

活用する

下の資料を読み、今の自分や将来の自分に必要な生活習慣の改善の工夫について、伝え合ってみましょう。

資料 5 がんを防ぐための新12か条

1. たばこは吸わない
2. 他人のたばこの煙をできるだけ避ける
3. お酒はほどほどに
4. バランスのとれた食生活を
5. 塩辛い食品は控えめに
6. 野菜や果物は不足にならないように
7. 適度に運動
8. 適切な体重維持
9. ウイルスや細菌の感染予防と治療
10. 定期的ながん検診を
11. 身体の異常に気がついたら、すぐに受診を
12. 正しいがん情報でがんを知ることから

\*中学生は喫煙も飲酒もしてはならない。

広げる

自分の生活を振り返って、がんを予防するためにどんなことに気をつけたらよいか、考えてみましょう。

# 教科用図書におけるがんの取扱い例

## 大修館書店「現代高等学校体育」（高等学校）

保健編 1単元 現代社会と健康

### 04 がんの原因と予防



#### 1 がんとその種類

① 細胞分裂という。

② 異常な細胞を生み出しても、通常は、免疫の働きによって、その細胞は修復されたり除去されたりする。p.46「感染症の予防」参照。

③ 異常な細胞がかたまりとなり、まわりに広がやすくなる。がん細胞がまわりの組織や臓器に広がっていくことを発癌という。また、リンパ管や血管を通して、がん細胞が発生した場所から離れ、リンパ節やほかの臓器に移動して定着し、そこでまた増殖することを転移という。

④ p.8「私たちの健康のすがた」参照。

1 **がんとは** 私たちの体には約37兆個の細胞があり、それぞれの細胞には新しい細胞をつくるための遺伝子が入っています。通常、遺伝子は正確に複製されて細胞が生まれ変わります。その際、遺伝子が傷つけられたり、複製ミスを繰り返したりすることで、異常な細胞が生み出され、その細胞が無秩序に増殖し、体の働きを妨げることがあります。これががんという病気であり、現在、日本における死因の第1位となっています。

2 **がんの種類と原因** がんには、肺がん、大腸がん、胃がん、乳がんなどさまざまな種類があります。

がんは、喫煙、飲酒、野菜不足や過食、運動不足などの生活習慣、細菌・ウイルスによる感染などさまざまな原因によって起こります。しかし、小児がんでは生活習慣や細菌・ウイルスと関係ないものがほとんどであり、がんの原因のすべてがわかっているわけではありません。

#### 資料1 おもながんの種類とリスク要因・リスクを軽減する要因

種類	症状など	リスク要因・リスクを軽減する要因
肺がん	気管支や肺の細胞が何らかの原因でがん化したもの。日本人のがんのなかで、死亡数がかつても多く、とくに男性に多い。治療が難しいのがんの一つ。	喫煙、受動喫煙、アスベスト
大腸がん	大腸（盲腸・直腸・肛門）に発生するがん。日本人は、S状結腸と直腸にがんができやすい。早期の自覚症状はほとんどなく、進行すると、血便、下痢と便秘の繰り返し、便が細くなる、体重減少などが起こる。	飲酒、肥満、運動
胃がん	胃の壁の内層をおおう粘膜の細胞ががん細胞となったもので、ピロリ菌の感染が発病にかかわる。男性に多く、50歳ころから増加する。胃の壁を厚く厚くさせながら広がっていくタイプ（スクリップ胃がん）もある。	喫煙、ピロリ菌、食塩
すい臓がん	約9割ですい臓の細胞にがんができる。初期には症状が出にくく、進行すると、腹痛や背中の痛み、食欲不振、腹部膨満感（すくにお腹がいっぱいになる）、黄疸などがみられる。	喫煙、糖尿病
肝臓がん	肝炎ウイルスへの感染がおもな原因で、肝臓の細胞ががん化したもの。男性に多い時期があり、50歳代から増加し、80歳前後でピークとなる。	喫煙、飲酒、肥満、肝炎ウイルス、糖尿病、コヒー
乳がん	女性がかかるがんのなかでもっとも多い。多くは乳管（母乳を運ぶ管）から発生し、「乳管がん」と呼ばれる。自覚症状として、乳のしこり、エゴボのような皮膚のひきつれ、リンパ節の腫れなどがある。	肥満
子宮がん	ヒトパピローマウイルスへの感染が原因で、子宮の入口にできる子宮頸がんと女性ホルモンの刺激などが原因で、子宮の奥側にできる子宮体がんがある。月経中でないときの出血などがあるときは、早期に受診する。	喫煙、ヒトパピローマウイルス
白血病	発病原因の多くは不明で、小児がんの約4割を占める血液のがん。白血球ががん化した細胞（白血病細胞）となって骨髄中に増殖することで発病する。貧血、発熱、骨痛、頭痛、吐き気などの症状がある。	喫煙

#### コラム

細菌・ウイルスの感染とがん ピロリ菌（ヘリコバクター・ピロリ）の感染によって、慢性胃炎が起こり、それが胃がんにつながる可能性があります。約8割の胃がんはこれが原因だと考えられています。また、B型肝炎ウイルスやC型肝炎ウイルスに感染すると、慢性肝炎を経て、肝臓がんになることがあります。さらに、ヒトパピローマウイルスの感染は、子宮頸がんの約9割の原因といわれています。



ピロリ菌

#### 2 がんの予防

- 学習の目標
  - がんの種類や原因について説明できる。
  - がんの一次予防と二次予防について例をあげて説明できる。

keywords  
がん/生活習慣/細菌・ウイルスによる感染/一次予防/二次予防

1 **リスクの軽減と一次予防** 禁煙、節酒、減塩、過度な運動、適切な体重管理という5つの健康的な生活習慣によって、がんになるリスクを軽減できることがわかっています。また、がんの種類によって、がんになるリスクを上げる要因や下げる要因が異なります。細菌・ウイルスの感染が原因のがんについては、それらを除去したり、感染を予防したりすることによって、がんになるリスクが下がります。このように、がんを予防するには、がんのリスク要因を減らしたり、リスクを軽減する要因を増やしたりする一次予防が重要です。

2 **早期発見** がんの原因はわかっていないものも多いことから、がんを早期に発見し、早期に治療を開始する二次予防も大切です。がんになっても、早期発見によって治ることが多くなってきています。がんの早期発見には定期的ながん検診を受けることが重要です。

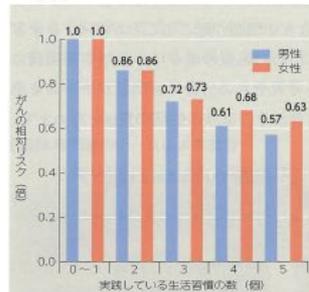
p.12「生活習慣病の予防と回復」参照。

#### 資料3 がんの5年相対生存率(%) (2010～2011年)

病期	1期	2期	3期	4期	5期
胃	94.7	67.6	45.7	8.9	
大腸	95.1	98.5	76.6	18.5	
肺	81.6	46.7	22.6	5.2	
全部値	66.4				

病期（ステージ）はがんの進行の程度を示し、数字が大きいくほど体の広い範囲に広がっている。早期であれば、8～9割が治る。がん医療は進歩しており、生存率は年々向上している。

#### 資料2 5つの健康な生活習慣とがんになるリスク



5つの生活習慣（禁煙、節酒、減塩、過度な運動、適切な体重管理）を、まったく実践していないあるいは1つだけ実践している人が、がんになるリスクを1としたときの、実践している生活習慣の数ごとのリスクの違いをあらわしている。

#### 資料4 国がすすめるがん検診

	肺がん検診	胃がん検診	大腸がん検診	乳がん検診	子宮頸がん検診
おもな検診内容	胸部X線検査 低線量胸部CT	胃部X線検査 または胃内視鏡検査	便潜血検査	乳房X線検査 (マンモグラフィ)	検診 細胞診
対象年齢 (痕の検査は50歳以上)	40歳以上	50歳以上	40歳以上	40歳以上	20歳以上
受診期間	年に1回	2年に1回 (当分の間、胃部X線検査については年1回実施可)	年に1回	2年に1回	2年に1回

がん検診は、症状のない健康な人が対象で、がんを早期発見し、適切に治療するためにおこなわれている。自治体から委託を受けた医療機関などで受診することができる。



日本ではがん検診の受診率が5割程度にとどまっている。その考えられる原因について、調べてみよう。

# がん教育に関する教材・補助教材



## がん教育推進のための教材 (令和3年3月一部改訂)

学校においてがん教育を実施するにあたり効果的な指導が行えるよう、教材を作成。

[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/kenko/hoken/1369992.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/kenko/hoken/1369992.htm)



## 外部講師を活用したがん教育ガイドライン (令和3年3月一部改訂)

学校において外部講師ががん教育を実施するにあたり、留意すべき事項等を示すものとしてガイドラインを作成。

[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/kenko/hoken/1369991.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/kenko/hoken/1369991.htm)



## がん教育推進のための教材 補助教材について (令和3年3月一部改訂)

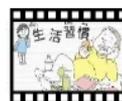
がん教育を実施する際の参考資料となるよう、「がん教育推進のための教材」に対応したスライド資料として、小学校・中学校及び高等学校版作成。

[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/kenko/hoken/1385781.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/kenko/hoken/1385781.htm)



### 映像教材

映像教材①  
「がん博士の『がんについての基礎知識』」  
がんについての知識を伝える。



映像教材②  
「がんと生きる」  
がん患者の思いや考えを伝える。

### ワークシート



### スライド教材



## 背景

- 平成28年12月に改正されたがん対策基本法第23条では、「国及び地方公共団体は、国民が、がんに関する知識及びがん患者に関する理解を深めることができるよう、学校教育及び社会教育におけるがんに関する教育の推進のために必要な施策を講ずるものとする。」というように、がん教育の文言が新たに記載された。
- 平成29年度から令和4年度までの6年間を対象とした第3期がん対策推進基本計画では、がん教育について、「国は、全国での実施状況を把握した上で、地域の実情に応じて、外部講師の活用体制を整備し、がん教育の充実に努める。」ことが目標とされている。
- 平成29年3月に小学校及び中学校、平成30年3月に高等学校の学習指導要領がそれぞれ改訂され、中学校及び高等学校においては、「がんについても取り扱うこと」を新たに明記され、中学校の全面实施（令和3年度）・高等学校の年次進行実施（令和4年度）に向け、学習指導要領の対応を検討する必要がある。

## 課題

- ① **教員のがんについての知識・理解が不十分**  
健康については、子供の頃から教育することが重要であり、学校でも健康の保持増進と疾病の予防という観点からがん教育に取り組んでいるが、教員のがんに関する知識が不十分であることや外部講師が学校で指導する際の留意点等の認識が不十分である。
- ② **がん教育の全国への普及・啓発が必要**  
がん教育に対して地域により温度差があるため、全国で実施する学習指導要領に対応したがん教育の指導内容を充実させ、全国への普及・啓発を図る必要がある。
- ③ **外部講師の活用体制の一層の充実が必要**  
がん教育における外部講師の活用状況が十分とは言えず、学校が外部講師を活用するための体制を充実させる必要がある。

## 学習指導要領に対応したがん教育の実施

### 事業概要

#### 1 学習指導要領に対応したがん教育の普及・啓発

学習指導要領を踏まえたがん教育について、教員や外部講師の質の向上を図るとともに、各都道府県で行っている先進事例の紹介等を行い、全国への普及・啓発を図る。

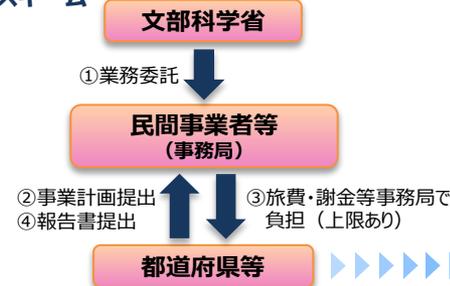
- 教員・外部講師に対する実践的ながん教育研修会の実施
- 公立以外の国・私立学校も対象としたがん教育シンポジウムの開催

#### 2 地域の実情に応じたがん教育の実施

全国でがん教育を確実に実施するため、それぞれの地域の実情に応じた取組を支援するとともに、がん診療連携拠点病院等と連携し、がん専門医、がん経験者等の外部講師を活用したがん教育の取組を支援する。

- がん教育に関する教材の作成・配布
- 外部講師によるがん教育の実施
- 外部講師名簿作成、活用体制の整備

#### 事業スキーム



#### 都道府県等における取組

- 外部講師の派遣
- 外部講師を活用した授業研究会
- 教職員・外部講師を対象とした研修会
- 各学校での外部講師を活用したがん教育

委託先 民間事業者等

箇所数 単価 70万円/自治体 程度

委託 対象経費 諸謝金、旅費、借損料、印刷製本費、消耗品費 等

## 成果

- 本事業により、がんに対する正しい知識、がん患者への正しい理解及び命の大切さに対する認識の深化を図る。
- 学習指導要領に対応したがん教育の確実な実施に向けた、取組の充実を促す。
- 外部講師の積極的な活用を図るため体制を整備する。

## 1 学習指導要領に対応したがん教育の普及・啓発



がん教育研修会

がん教育シンポジウム



## 2 地域の実情に応じたがん教育の実施



外部講師を活用した講演会



がん教育の教材作成



外部講師研修会



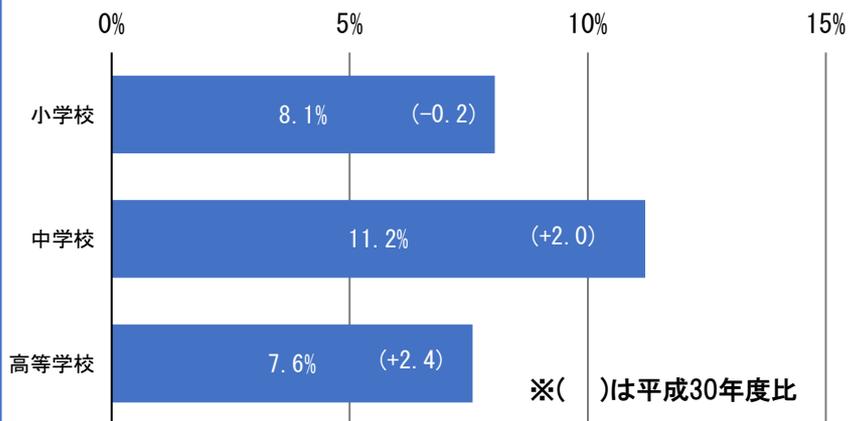
授業研究会



# がん教育における課題と成果

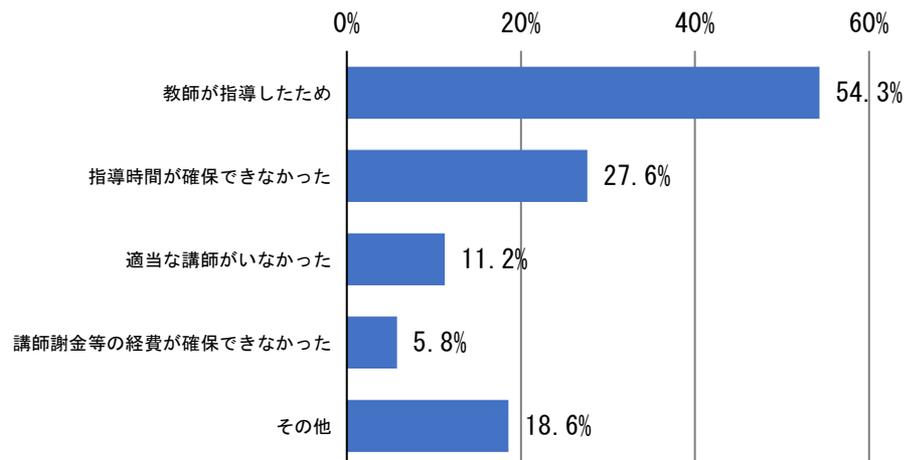
## 1 外部講師活用状況

### 外部講師を活用したがん教育の実施状況(学校段階別)



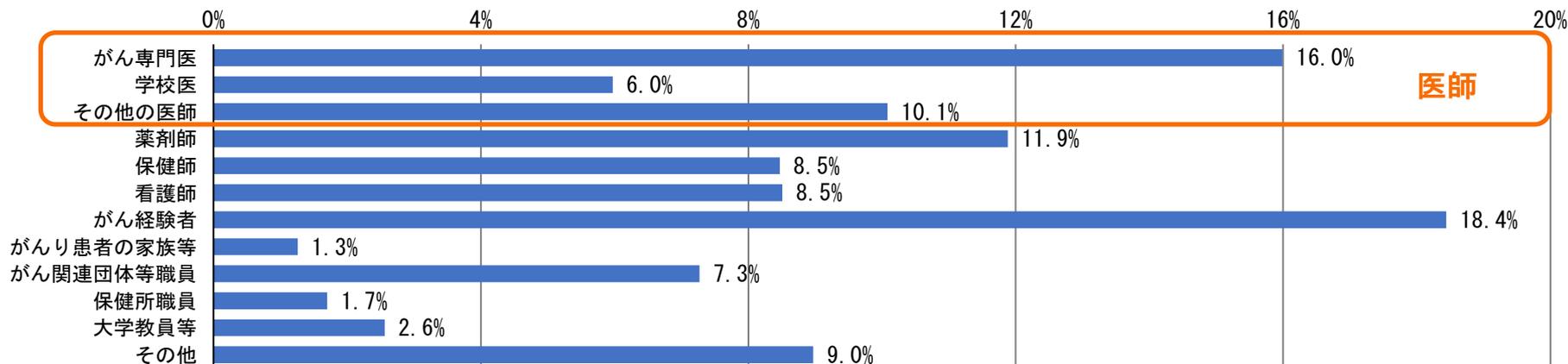
## 2 外部講師を活用しなかった理由

### 外部講師を活用しなかった理由(複数回答可)



## 3 外部講師の職種

### 活用した外部講師の職種(複数回答可)



# がん教育における課題と成果

がん教育総合支援事業

児童生徒に対するアンケートより

- Q がんの学習は、健康な生活を送るために重要だ(事業実施後)  
「そう思う」と答えた割合 平成28年度86.9% → 令和3年度90.4%  
3.5ポイント増加
- Q がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う(事業実施後)  
「そう思う」と答えた割合 平成28年度69.5% → 令和3年度74.8%  
5.3ポイント増加
- Q がんになっている人も過ごしやすい世の中にしたい(事業実施後)  
「そう思う」と答えた割合 平成28年度73.8% → 令和3年度81.3%  
7.5ポイント増加

## 今後の取組

- ・子供たちが、がんについて正しく理解し、がん患者や家族などがんと向き合う人々に対する共感的な理解を深めることを通して、自他の健康と命の大切さについて学び、共に生きる社会づくりに寄与する資質・能力の育成を図ることが重要
- ・学習指導要領に基づき実施される「がん教育」の充実に向けて、引き続き、教師や外部講師を対象とした研修や外部講師の活用などの取組を推進する。